



實性

平成二十八年 第四号 秋彼岸発行

秋のお彼岸のご案内

仏教の年中行事は数多くございますが「彼岸会」は、日本独特の仏事です。

平安時代、敏達天皇が始められました、春分の日、秋分の日を中心とした一週間です。初日を「彼岸入り」、春分の日、秋分の日を「お中日」、最終日を「彼岸明け」といいます。

私達の住む多い世界を「比岸（しがん）」、迷いを離れた悟りの世界を「彼岸（ひがん）」と呼びます。

私達は、常、日頃、生活におわれた多忙な日々を送っております。なかなか自分自身を見つめることは容易ではありません。そこで年に春秋の一週間、己を見つめる修行の期間が「彼岸」です。

今、自分があるのは、父母のいつくしみ育ててくださったお蔭、ご先祖に守られていたからこそと、感謝の念のもと、お墓参りをしたいものです。

ではなぜ、この時期に修行期間としたのでしょうか。修行の一つに「日想観（にっそうかん）」というものがあ

ります、極楽世界のある方角、すなわち西に沈みゆく太陽を見つめる修行ですが、春分の日、秋分の日は、お日様が真西に沈むことから最も適している日なのです。
是非ご先祖様へのご回向、そして自身の極楽往生のため、彼岸法要にご参加下さい。

彼岸会法要

● 九月二十二日（木） 午前十一時より

お彼岸入り 九月 十九日（月）

お彼岸中日 九月二十二日（木）

お彼岸明け 九月二十五日（日）

お中日



※お彼岸のお塔婆はお早めにお申し込みください。

盂蘭盆会でご報告

本年も、七月、八月、両盂蘭盆会法要が厳修されました。

両月合わせて三百名様のご参加をいただきました。

盂蘭盆会法要では、「絵で見る日常勤行式」を檀信徒の皆様とご一緒にお唱えいたしました。今回は、「撰益文」についてお話しいたしました。

【撰益文】（しようやくもん）

こうみょうへんじょう

光明 遍照

じつぼう

十方 世界

ねんぶつ しゅじょう

せつしゅ

不捨

訓読みですと

にょらい

如来の 光明は

あまね

遍く十方世界を照らして

ねんぶつ しゅじょう

撰取して捨てたまわず

阿弥陀様の御光は、この世界をくまなく照らし、阿弥陀様のお名前を呼ぶ、すなわち、「南無阿弥陀仏」とお念仏を唱える私共をくまなくお救い下さって、決して捨てることはありません。そして、確信をもつてお念仏を唱え続けます。

法要前には、客殿にてお抹茶をのんでいただきました。

これは、ご接待のお茶というよりは、法要にのぞみ、心身を清め睡魔を防ぎ、法要に集中できますようにと飲んでいただくものです。時間に間に合わず本堂に上られることのないように

早めにお出かけ下さい。

本年は、お供物として「みそ松風」「動物のボールペン」をお持ち帰りいただきました。



實性寺の蓮の華

今年の境内の蓮の華は、八月中旬まで咲き続いています。天候により開花が年により異なるようです。」という大変貴重な蓮が今年は多く花をつけています。例年になく大きく育ち、葉も大きく立派で一メートル五十センチほどになっています。

この妙蓮は、「千弁蓮」といい、観音菩薩が手に持っている蓮です。

その名の通り、八重どころか幾重にも花びらをつけ、次から次と花弁が下に下がってきます。花は大変重く、支柱がないと倒れてしまいます。

蓮の華は、極楽浄土の花、眺めているだけで心が洗われるようです。

蓮の華が終わりますと、枯れた実は、中の種をお数珠にしたり、飾ったり、枝は、散丈という法具に用います。枯れてからも仏具として役立っています。



手工芸

お檀家の池田綾子様より、心のこもった手作りの茶碗洗いを頂戴いたしました。ありがたく拝受いたしました。



宗紋



浄土宗の紋は「月影香葉」と呼ばれる紋です。この香葉は法然上人の生家の漆間家の紋に由来し、大正四年（一九一五）に、蕊を七個とし、宗歌「月かげ」に詠われている「月」を配して現在の紋が定められました。

宗歌

月かげの
いたらぬさとは なけれども
ながむる人の 心にぞすむ

法然上人が詠まれた和歌のうちでも代表的な一首で、鎌倉時代の勅撰和歌集『続千載和歌集』にも選ばれています。その詞書に「光明遍照十方世界といえる心を」とあるように、阿弥陀仏の光明は全世界をあまねく照らし、どんな人をも救い取るといふ慈悲の心を歌われたものです。



妙蓮



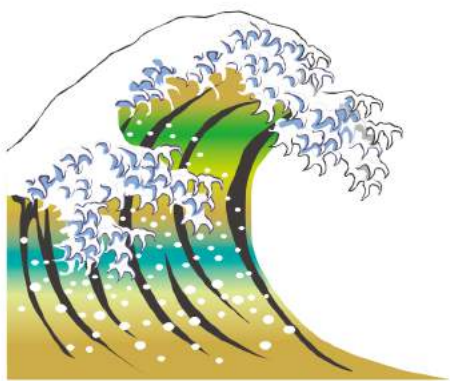
剣舞蓮



サギ草



酔妃蓮



ミセス・スローカム



境内の



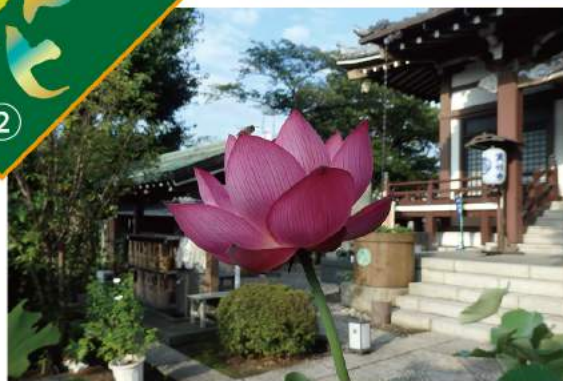
大山蓮華



アメリカ白蓮



大賀蓮



法要について

※お申し込みは、日時が重なる場合がありますので、お早めにお問い合わせいたします。

※お位牌・写真をお持ちください。

※清宴を客殿でご希望の場合は、お早めにお問い合わせいたします。

尚、仕出し料理は、指定入りのお店がございますので、お問い合わせください。

亡くられた方への影膳をご用意ください。

※お供物といたしましては、御本尊様に生花・果実・お菓子をお供えください。

お墓用の生花は、御本尊様生花とは別に用意ください。

お墓参り

ご本尊様のおひざもと、ご本尊様に守られて皆様方のお墓がございます。

先ずは、山門をくぐる時に合掌一礼し、本尊様前で合掌一礼して御徳を頂き、その功德をお墓に振り向けます。これを回向と申します。

墓石を清め・花・香・水を差し上げ、お供物を供えます。お菓子・飲み物は、カラスや猫等が荒らしますので必ずお持ち帰りください。

また、古く朽ち果てたお塔婆は、はずして本堂縁の下の塔婆入れに置いてください。

今、こうしてお墓参りの出来る喜びの一端を、ご縁の無いお墓「無縁塔」にお参りください。六地藏尊、子育て水子地藏尊、開山上人墓碑、馬頭観世音菩薩にも、手を合わせたいものです。

お帰りには、またご本尊様に手を合わせます。故にこの場所を「御拝」と申します。

☆ご法要等のお塔婆を建立される方は、遅くとも十日前迄にお申し込み下さい。お電話よりファックスの方が正確です。ご利用下さい。

ファックス番号 03(3883) 3227

振替口座 00190-6-258873

※振込用紙をご入用の方はお申し出下さい。

〒121-0061 東京都足立区花畑三十七-十八
電話 03(3883) 8866

浄土宗 實性寺

<http://www.jisyoji.com>

